

試験研究の背景と目標

本県の果樹農業は、恵まれた気象条件に加え、京浜市場等大消費地に近接する有利な立地条件を活かした中で発展してきた。このような自然・社会・経済条件とともに、高い技術力を培った生産者が積極果敢に高度な新技術を経営に取り入れるなどの経営努力とが相まって、全国に誇れる果樹王国が築きあげられている。しかし、果樹農業を取り巻く環境は、国内外の産地間競争の激化に加え果実消費の減少・価格の低迷など、果樹生産を維持拡大する上で厳しい状況下にある。

県では、「やまなし農業ルネサンス大綱」を策定し、「未来につながる はつらつとした山梨農業」の実現に向けて、「未来を支える多様な担い手づくり」「戦略を重視した新たな販売ルートづくり」「次代につながる力強い産地づくり」「消費者から信頼される安全で優れたものづくり」「自然と調和した美しい里づくり」「観光と連携したふれあいの里づくり」の施策を重点的に推進している。

このような背景を踏まえ、果樹試験場では、「やまなし農業ルネサンス大綱」を推進するため、「力強い果樹産地づくり」や「やまなしブランドの確立」等を目指して、次の主要研究テーマを設定し、研究者の創意と工夫、産学官での連携、さらに圃場・施設・機材などの研究資源を最大限に活用して、効果的・効率的な試験研究を実施する。

1 消費者ニーズに応える「やまなしブランド」の開発

優良品種の育成と選抜分野では、本県の立地条件に適した栽培容易な機能成分に富む良質な醸造用ブドウの品種育成を継続して進める。また、生食用ブドウ、モモ、スモモ、オウトウについては消費拡大に結びつく戦略性の高い新品種の作出とともに、優良品種を選抜する。さらに、遺伝子診断法や組織培養等のバイオテクノロジー技術を活用して新品種の育成を進める。また、べと病抵抗性品種の育成も目指す。

2 高収益を目指す品質安定・増収・低コスト生産技術の開発

高品質安定多収技術分野では、近年、育成されたブドウとモモのオリジナル品種の高品質安定生産技術を確立する。また、ワイン産地山梨を維持するために、県産醸造用ブドウの高品質化に向けた栽培技術の確立を目指すとともに、作柄データベース構築のために果実調査や分析を統一し、ヴィンテージ設定のために客観的データの集積基準を整える。省力・低コスト生産技術分野では、生食ブドウの一文字整枝短梢剪定栽培による省力栽培技術の開発を進める。また、県産モモの輸出量を増やすため、輸出過程における温度管理等の鮮度保持技術を明らかにする。

3 環境にやさしく安全・安心な農産物の生産技術の開発

環境保全型技術分野では、安全・安心な果実生産と環境への負荷軽減に活用できる安定かつ効率的な栽培技術の開発を進める。病害虫防除技術については、省力で環境負荷の少ない防除技術の開発や生産現場で導入しやすい携帯情報端末を利用した病害虫診断サポートシステムの開発を進める。一方、土壌管理技術については、化学肥料を用いずに、有機物のみを施用する資源循環型肥培管理技術を確立する。

4 生産阻害要因の解明と対策技術の開発

生産阻害対策技術分野では、最近、生産現場で問題となっている病害虫について、より効率的な防除法の確立を目指す。特に、ブドウの害虫クビアカスカシバ、病害晩腐病、モモ害虫ウメシロカイガラムシ等の防除が困難な病害虫について生態や効率的な防除法、薬剤感受性、検出法等を明らかにする。

5 環境変動に対応した生産技術の開発

温暖化対策技術分野では、近年の気象変動により問題となっているブドウの着色不良について、これまでに明らかになった着色不良の各種要因をさらに詳細に解析し、着色向上対策の確立を目指す。

推進構想の主要研究テーマと試験研究予定課題

果樹試験場

消費者に喜ばれる
「やまなしブランド」の開発

—	生食用ブドウ新品種の育成	単	H16～
—	醸造用ブドウ新品種の育成	単・国委	S25～
—	核果類新品種の育成	単・国委	S63～
—	パイテク利用による新品種の育成	単	S55～
—	モモ優良品種選抜と栽培技術の確立	単	S56～
—	ブドウ優良品種選抜と栽培技術の確立	単	S59～
—	スモモ及びオウトウの優良品種選抜と栽培技術の確立	単	S51～

高収益を目指す、品質安定
・増収・低コスト生産技術
の開発

—	スモモの結実安定技術の確立	重	H25～27
—	醸造用ブドウの高品質化に向けた栽培技術の確立	単	H20～28
—	① 県産果樹オリジナル品種の栽培技術の確立	重	H26～28
—	② 一文字整枝短梢剪定栽培によるブドウの省力栽培技術の開発	単	H26～30
—	植物調節剤利用試験	単・委	S56～
—	ブドウウイルスフリー苗木供給事業	単	S56～
—	③ 県産モモの輸出促進に向けた輸出過程における 鮮度保持技術の改善	単	H26～28

自然循環機能を活かした環境
にやさしい生産技術の開発

—	有機物を利用した環境負荷低減型施肥法の開発	単・国委・委	H24～26
—	省力・環境負荷低減型防除技術の開発	単	H22～26

生産阻害要因の解明と対策
技術の開発

—	④ モモにおけるウメシロカイガラムシ防除の効率化	単	H26～28
—	果樹病害虫発生予察事業	国補・国委	S40～
—	ブドウ及び核果類等の病害虫薬剤防除法の改善	単・国委・委	S54～

環境変動に対応した生産技術
の開発

—	環境変動に対応したブドウ着色向上技術の開発	重	H24～28
---	-----------------------	---	--------